

【目標】 外国人児童生徒及び帰国児童生徒等に対し、日本語基礎指導や適応支援等、学校生活に必要な日本語を習得するための指導・支援を継続的に行うとともに、受け入れ側となる教員や児童生徒の多文化共生の意識を高め、対象児童生徒が安心して学校に通い、学び合う環境を整える。

【課題】

個に応じた丁寧な指導のための適切なアセスメントの実施。

在籍学級での授業参加を進めるための学級担任が行う支援の充実。

個に応じた日本語指導を充実させるための計画的な研修の実施。

海外から転入直後の児童生徒に対する指導体制の整備。

学校における多文化共生教育の推進。

日本語指導教室通級指導、訪問指導の充実

- 日本語レベルに応じた日本語の指導の実施
- 教育委員会及び日本語指導教員並びに日本語指導員と学校の連携強化
- 特別の教育課程を編成し、個々に応じた指導を実施

日本語指導教員の活用

- 学校への訪問指導
- 担当校での外国人児童生徒等の支援コーディネート
- 日本語指導教室の運営
- D L Aに基づく日本語指導・J S Lの指導の実践
- 多文化共生に関する授業研究と実践及び多文化交流会の実施と実践事例の発信

日本語指導教員、日本語指導員、学校職員への研修

- 日本語指導教員・日本語指導員との連携強化による在籍学級での授業参加の促進
- 日本語指導が必要な児童生徒についての実態把握
- 特別の教育課程・D L A・J S Lについての理解
- 多文化共生への理解と受け入れ体制づくりの工夫

【R 6 の目標達成度】

日本語初期の児童生徒の生活言語の向上  78% (目標73%)

年度当初より学校生活が楽しいと感じている児童生徒  達成率91% (目標93%)

学校と日本語指導教室・日本語指導教員・日本語指導員との連携強化  アンケートによる肯定的評価 100%

初期日本語指導終了児童生徒への外国人児童生徒支援教員によるD L A実施  達成率 100%

I C Tを活用した日本語指導への取組  実施率 90%

【成果と今後の課題】

日本語指導教員の指導体制整備と学校との連携により、生活言語力の向上してきている。令和7年度は、さらに在籍学級での適応が進み授業参加ができるよう、定数化に向けて増員される日本語指導教員を効果的に配置する。特に、来日直後の適応支援や初期の集中的な日本語指導に力を入れていく。また、そのため、日本語指導教員に対する日本語指導の専門知識技能を身につけるための研修を行っていく。